

後二者即チロ(ロ)ハニ在リテハ「アルレルギー」反應ガ斯ク長時間ヲ經過シテ始メテ出現セルモノト思考スルヨド能ハズシテ、寧ロ所謂牛痘反應ノ始マリナリト解スルヲ以テ穩當ナリトゼンモ、而モ又結果ヨリ之ヲ推定スルニ必シモ定型的膿泡ヲ形成スルニ至ラズシテ、漸ク丘疹(Papille)ヲ盛ス程度ニ善感スルモノアリ、又ハ全ク不善感ニ終ルモノアルヲ見ルトキ「アルレルギー」反應ハ免疫性又ハ個體性ニ依リテ接種後二十四時間或ハ四十八時間若ハ七十二時間ニシテ出現スル等ノ型ヲ取ルモノナリト云フベシ、然リト雖、アルレルギー」反應出現ノ時期遲ケレバ、夫レ丈ヶ初種痘經過ニ於ケル場合ト類似ノ經過及症候ヲ呈スルノ多數ナリシコトハ茲ニ附記セザルベカラズ。

(3)「アルレルギー」反應ノ症候及型

「アルレルギー」反應ノ型ニ就テハ、反應出現ノ時期ニ依リ、又其ノ經過ニ依リ、尙又「アルレルギー」反應ノ各種症候ニ依リ、或ハ其ノ程度及形狀並ニ色彩等ニ依リテ之ヲ區分シ得ベク、將亦以上ヲ同時ニ觀察セル、分類法モアルベク既ニビルケー氏ガ報ゼシ如ク是等種々異リタル個々ノ反應ヲ一定ノ型ニ分類スルコトハ頗ル至難ノ業ナリト云フベシ、而シテビルケー氏ノ分類法ハ敍上ノ如ク主トシテ紅暈(Area)及丘疹(Papille)ノ有無竝其ノ出現ト經過ニ依リテ爲サレタルモノナリ、即チ氏ハ數名ノ者ニ種痘シテ毎時間乃至日々精密ニ各接種點個々ヲ比較觀察シ、之ヲ六型ニ分類セルモノニシテ、寧ロ演繹的分類ヲ爲シタルモノナリト云フベク、予等ハ反之大衆ノモノニ接種シ其ノ反應出現ノ時期、經過、症候ヲ仔細ニ觀察シテ之ヲ綜合シ各種ノ分類ヲ爲シタリ、即チ其ノ方法ハ歸納法ニ依リタルモノニシテ其ノ各々ノ成績ハ各項ニ示セルニ依リ茲ニハ再び列記セズ。

而シテ大凡「アルレルギー」反應ノ主要症候ハ前述ノ如ク接種局所ノ

A. 発赤即チビルケー氏ノ謂フ紅暈反應(Areareaktion)

B. 丘疹即チビルケー氏ノ謂フ丘疹反應(Papreaktion)或ハ丘疹形成(Papillenbildung)ニシテ此外

C. 著シク浸潤シ腫脹セルモノ

D. 水疱形成ノ主ナルモノ

等ニ分類スルヲ得ベク、自覺症トシテハ殆ド總テニ搔痒感ヲ伴ヒ、或ハ之ニ疼痛ノ加ハルコトアリ、勿論是等ノ症候ハ或ハ早ク或ハ遲ク出現シ、長ク又ハ短ク經過シ、強ク弱ク或ハ形狀色彩ヲ異ニシ、尙且前記A.B.C.D.ノ四者強度ニ、或ハ輕度ニ、或ハ二者著明ニ、一者輕微ニ、一者強度ニ二者弱度ニ發現スル等描寫セル附圖ニ示スガ如ク極メテ雜然タリ、其ノ最モ定型的ナルモノハ切線ニ沿ヒ丘疹(Papille)状ニ隆起シ、其ノ周圍丘疹(Papel)様ニ腫脹シ、又ハ浸潤シ、暈狀ニ潮紅(Area)セルモノナリ、特ニ發赤(Area)ノ形狀ハ頗ル多種ニシテ、或ハ圓形ニ、橢圓形ニ、星狀ニ、葉狀ニ、紡錘狀ニ、線狀ニ或ハ島嶼狀ニ(比較的遠方ニ散在スルモノアリ)及半島様ニ突出セルアリ、又柔實様ヲ示シ或ハ其ノ邊緣鋸齒狀ヲ爲シ、平滑ナルビルケー氏ハ此内容液ハ中毒性產物ニシテ他ニ接種スルモノ發痘力ナキモノナリト云ヘリスル者本反應陽性者ノ半數内外ヲ占ムルハ特ニ注意ヲ惹キタル點ナリキ。

(4)「アルレルギー」反應ノ症候別經過

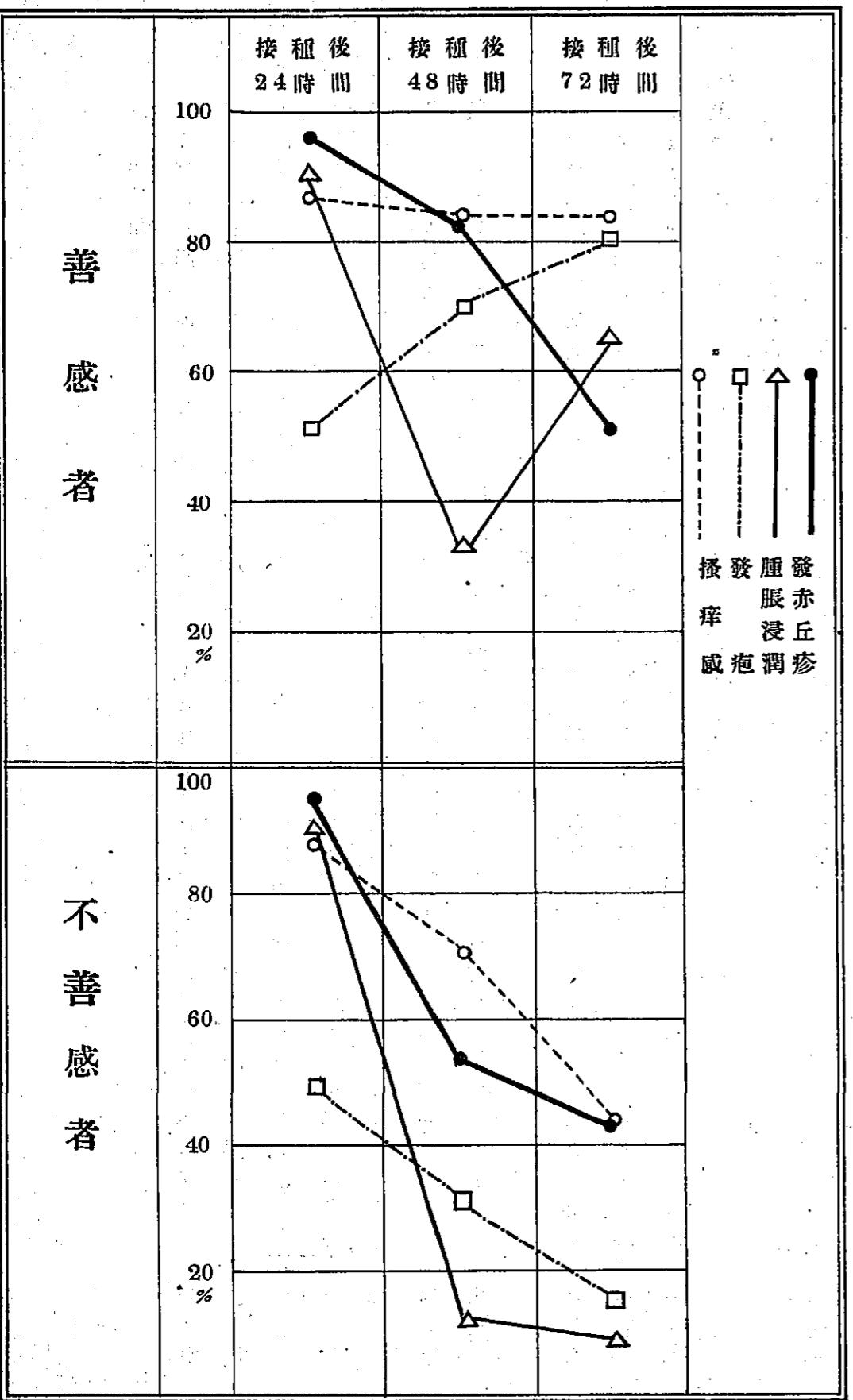
(1) 善感スル場合ニ在リテハ發赤丘疹三二十四時間ニシテ最高度ニ達シ、四十八時間後ニ至ルモ殆ド變化ナク、七十二時間後ニ於テ急ニ其ノ症狀ノ減退セバ、又見ル、反之腫脹浸潤ハ二十四時間後最高メタリ、即チ

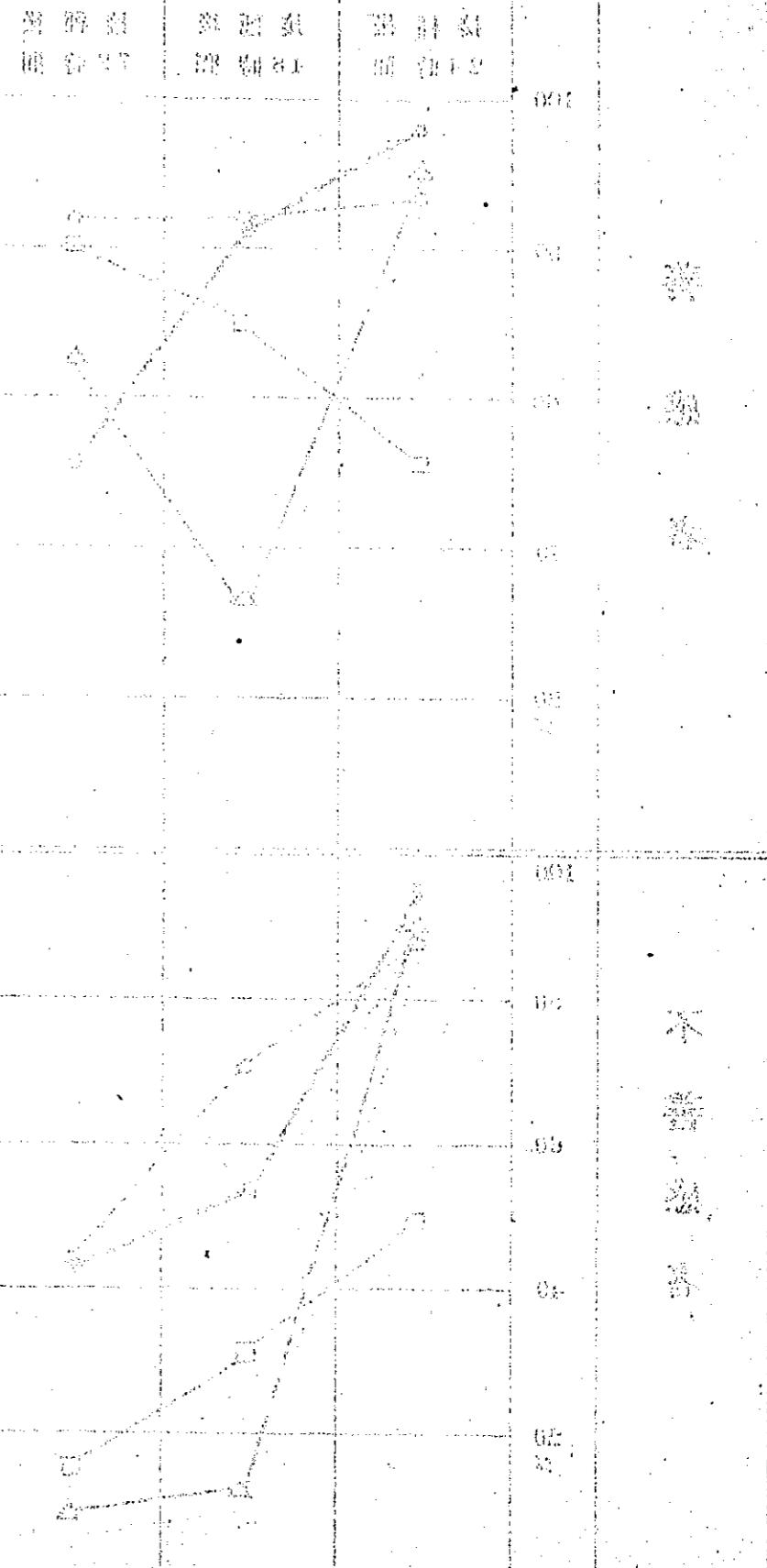
(1) 善感スル場合ニ在リテハ發赤丘疹三二十四時間ニシテ最高度ニ達シ、四十八時間後ニ至ルモ殆ド變化ナク、七十二時間後ニ於テ急ニ其ノ症狀ノ減退セバ、又見ル、反之腫脹浸潤ハ二十四時間後最高メタリ、即チ

度ナルモ四十八時間後ニ於テハ一度減退シ、七十二時間後ニ至リ再び上昇セル傾向ヲ示シ、發疱ハ二十四、四十八、七十二時間ト日ヲ經過スルニ從ヒ漸次增强シ、搔痒感ハ時間的ニ殆ド關係ナク同様ナル陽性率ヲ示セリ。

「アルレルギー」反応ノ症候別經過

人員百五十三名





以上ノ状態ハ勿論総括的ノ観察ニシテ、各個人ニ就テ之ヲ觀ルトキハ、此外特殊ノ経過ヲ取ルモノアレドモ要之多クノ場合「アルレルギー」反應ハ二十四時間前後ニ於テ最高度ニ達スルヲ以テ單ニ「アルレルギー」反應ノミヲ検セントスル場合ハ、接種ノ翌日一回之ヲ觀レバ充分ナリト雖、疑ハシキ場合ニ在リテハ四十八時間後ニ再検査スレバ足レリ。

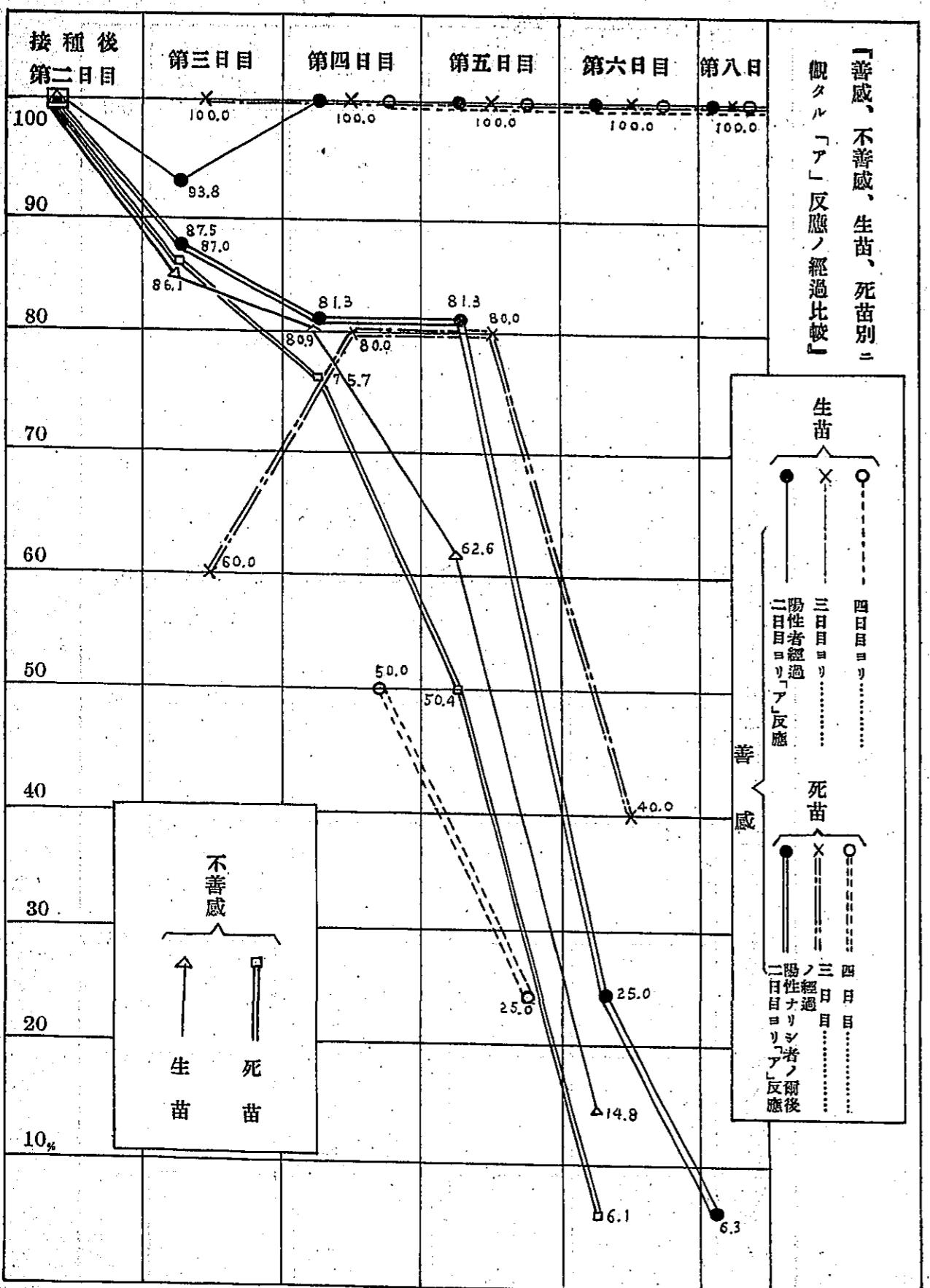
(5) 生死兩苗別ニ觀タル「アルレルギー」反應ノ消長

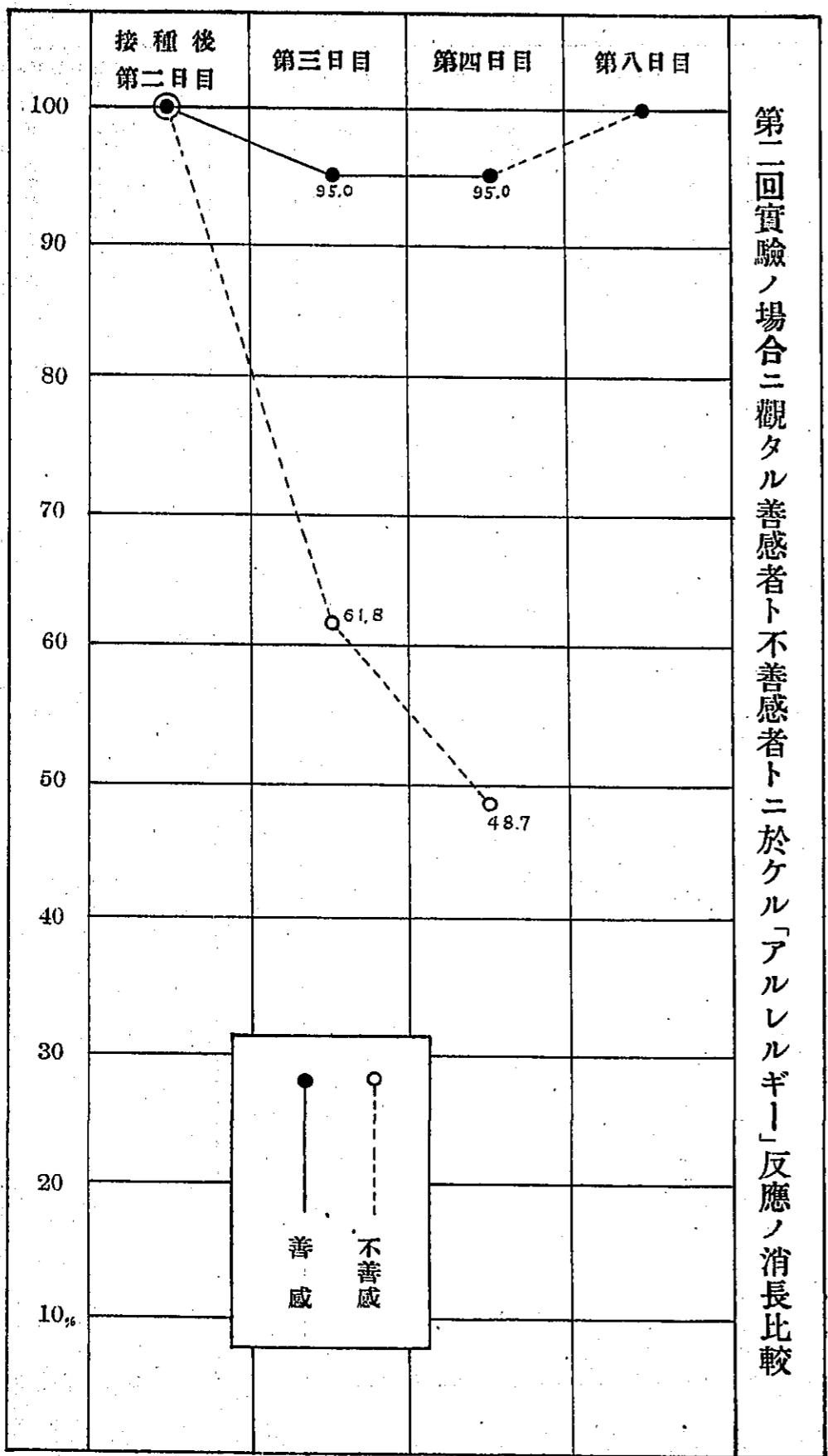
如上記スル所ハ主トシテ生苗ニ依リテ觀タル「アルレルギー」反應ノ症型並経過ニ就キ記載セルモノニシテ、其ノ陽性率ハ各型共ニ多少ノ動搖アルモ、種痘ガ所謂善感ニ至ル場合ニ在リテハ、反應ハ持續シテ丘疹(Papule)浸潤或ハ丘疹(Papille)及膿疱乃至結痂ヲ残シ、反之不善感ニ終ル場合ニ於テハ日ヲ經ルニ從ヒ反應ハ漸次減退シ遂ニ消失スルニ至ルモノナリ。

然レドモ加熱殺滅セル痘苗ヲ用キテ、之ト同時ニ同一人體ニ就キ實驗セル結果ハ、生苗ニ見ル場合ト異リ何レノ場合ニモ日ヲ經過スルニ從ヒ、其ノ陽性率亦漸次減退スルモ、而モ第六日目ニ至リ尙發赤丘疹ヲ殘スモノアルノミナラズ、引續キ第八日目迄之ヲ認メタルモノアリ、死苗ヲ以テ尙斯ノ如シトセバ種痘免疫上及實際問題トシテモ一考セザルベカラザル點ナリト云フベシ、尙特ニ興味アル事實ハ生苗ニテ檢シ、種痘ガ善感ニ至ルトキ死苗ヲ以テシテモ生苗ニ於ケルト同様ノ反應ヲ呈スルコトニシテ、不善感ニ至ル生死兩苗ノ反應ニ比シ甚シク其ノ越ヲ異ニス、予等ノ觀タル所ニテハ、前後二回ノ實驗共ニ斯ノ如キ消長ヲ示セルガ、果シテ統計上毎常斯ル經過消長ヲナスモノナリトセバ真ニ奇異ナル現象ナリト言ハザルベカラズ。

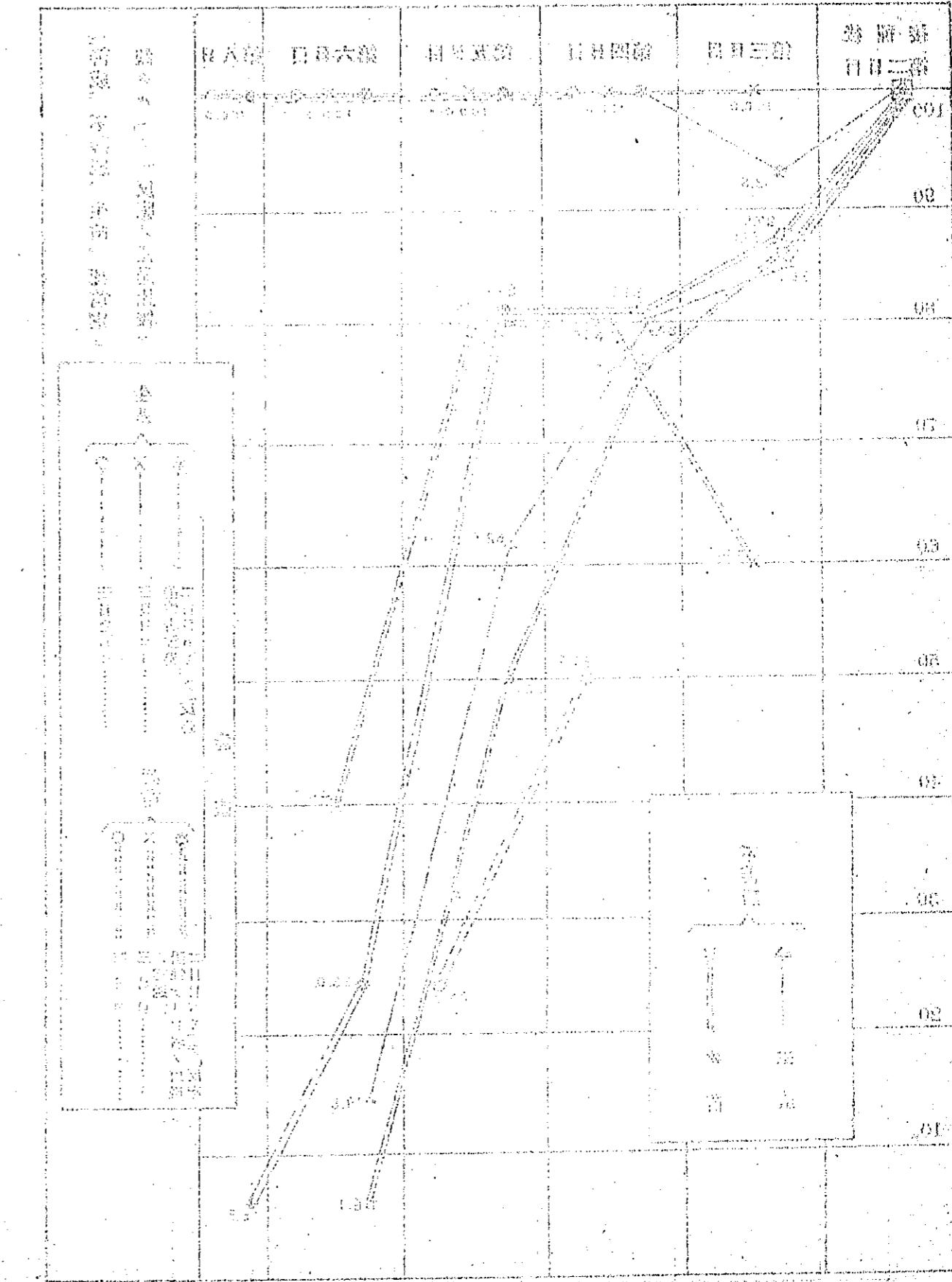
種痘ガ善感ニ至ル場合ノ「ア」反應消長

(二十五名)

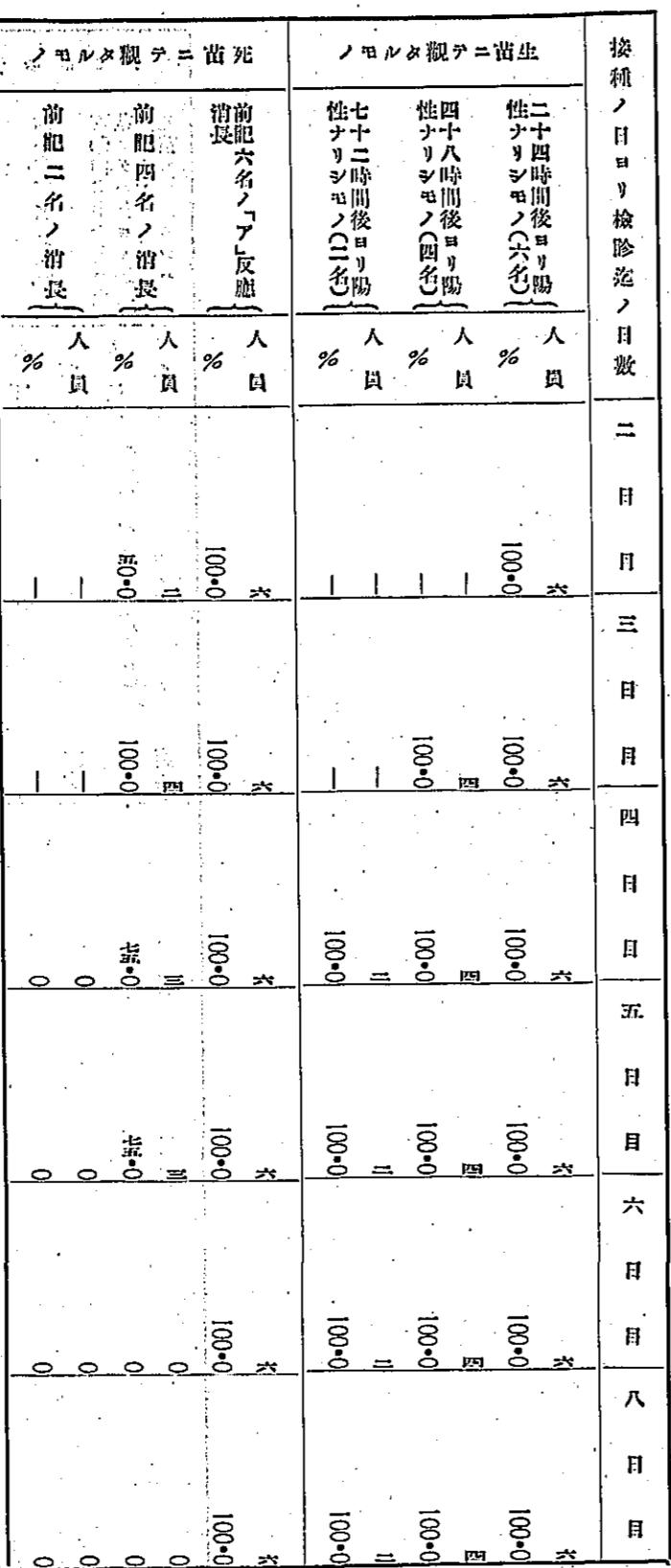




第一回 實驗ノ場合ニ觀タル善感者ト不善感者トニ於ケル「アルレルギー」反應ノ消長比較

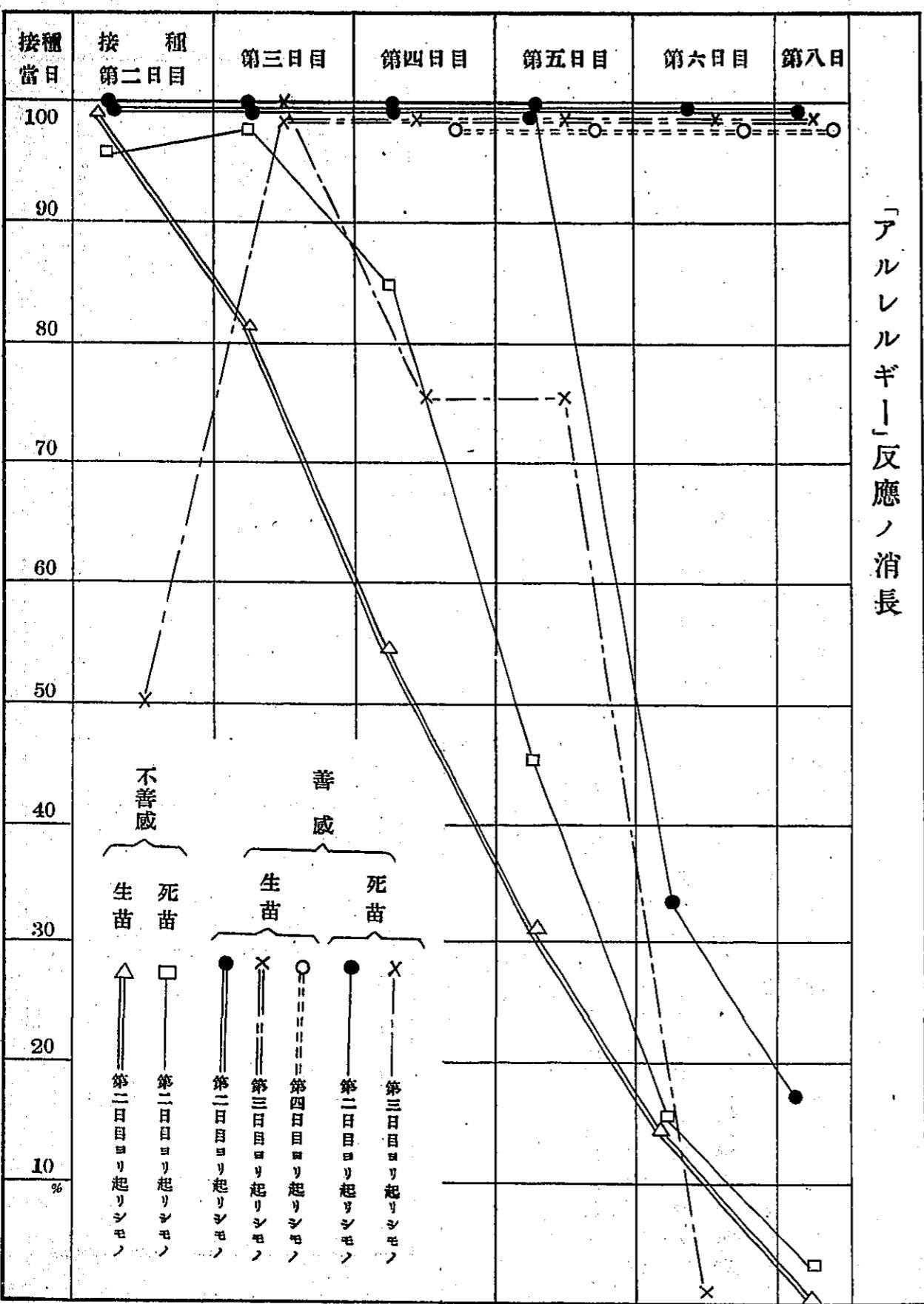


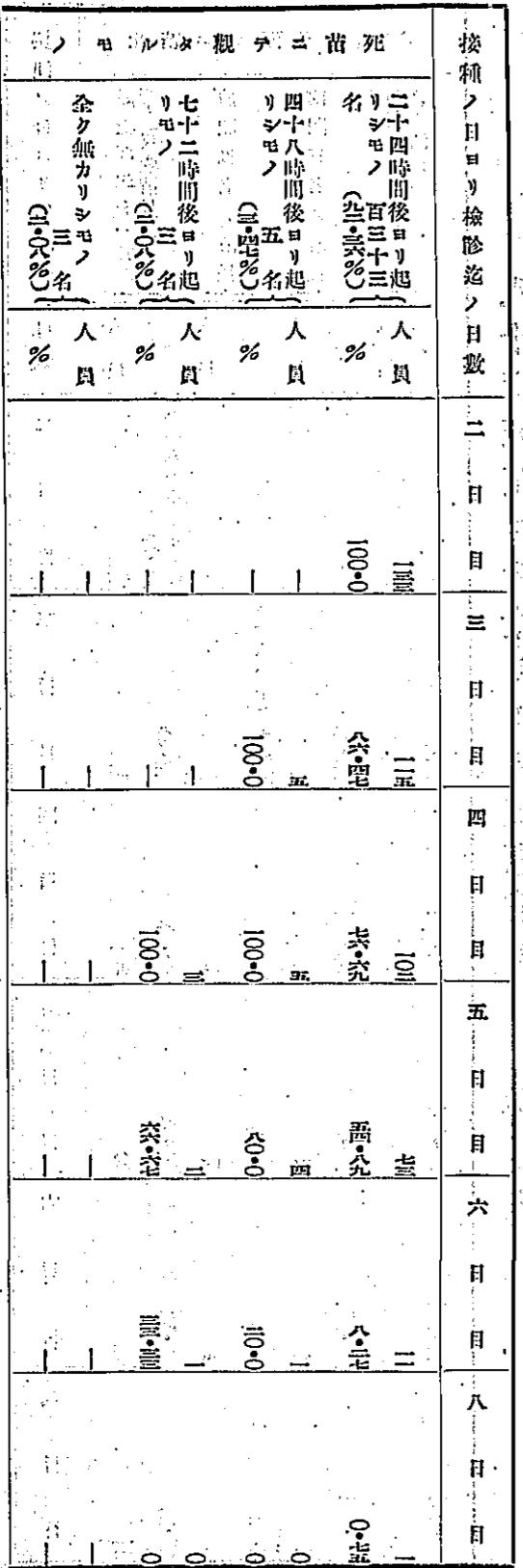
種痘ガ善感ニ至ル場合ノ「ア」反應消長 (十二名)



種痘ガ不善感ニ至ル場合ノ「ア」反應消長 (百四名)

接種ノ日ヨリ検診迄ノ日数	人員																
二日目	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
三日目	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
四日目	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
五日目	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
六日目	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
八日目	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0





六十度死菌ニテ検セル「ア」反応消長

(百四十四名)

(6) 痢菌死滅温度ニ依ル「アルレルギー」反応比較

「アルレルギー」反応ノ出現ニ際シ、常ニ生苗ハ死菌ニ比シ著明ニシテ、且其ノ持続モ長期間ニ亘ルモノナルベキヲ豫想セルモ、實際ハ之ト全ク反対ナル成績ヲ示ス場合アルヲ觀察セリ、即チ生苗ニ於テハ陰性ナルニ拘ラズ死菌ニ陽性ナル場合アリ、或ハヨリ強度ニ發現セルモノアリ。六十度竝八十度ニ下何レノ場合モ三十分ニ加熱セル痢菌ニ在リテハ、生苗ニ比シ早期反応二十四時間後ノ所見強度ニ現ハル者少數ナルモ、百度加熱苗ニ在リテハ反テ死菌ニ強キモノノ遙ニ多數ナルヲ見、又反応ノ持続ニ在リテハ六十度加熱苗組ニ於テハ生苗ヨリ長キモノ約四倍、八十度組五倍以上、百度組二倍以上ニ達シタリ。由是痢菌ヲ百度以内ノ高溫ニ加熱死滅セシムルトキハ強度ニ、而モ長時日持続スル「アルレルギー」反応ノ出現スルコトヲ知レリ。

百度死苗ニ依ル「ア」反應ノ消長
(七十六名)

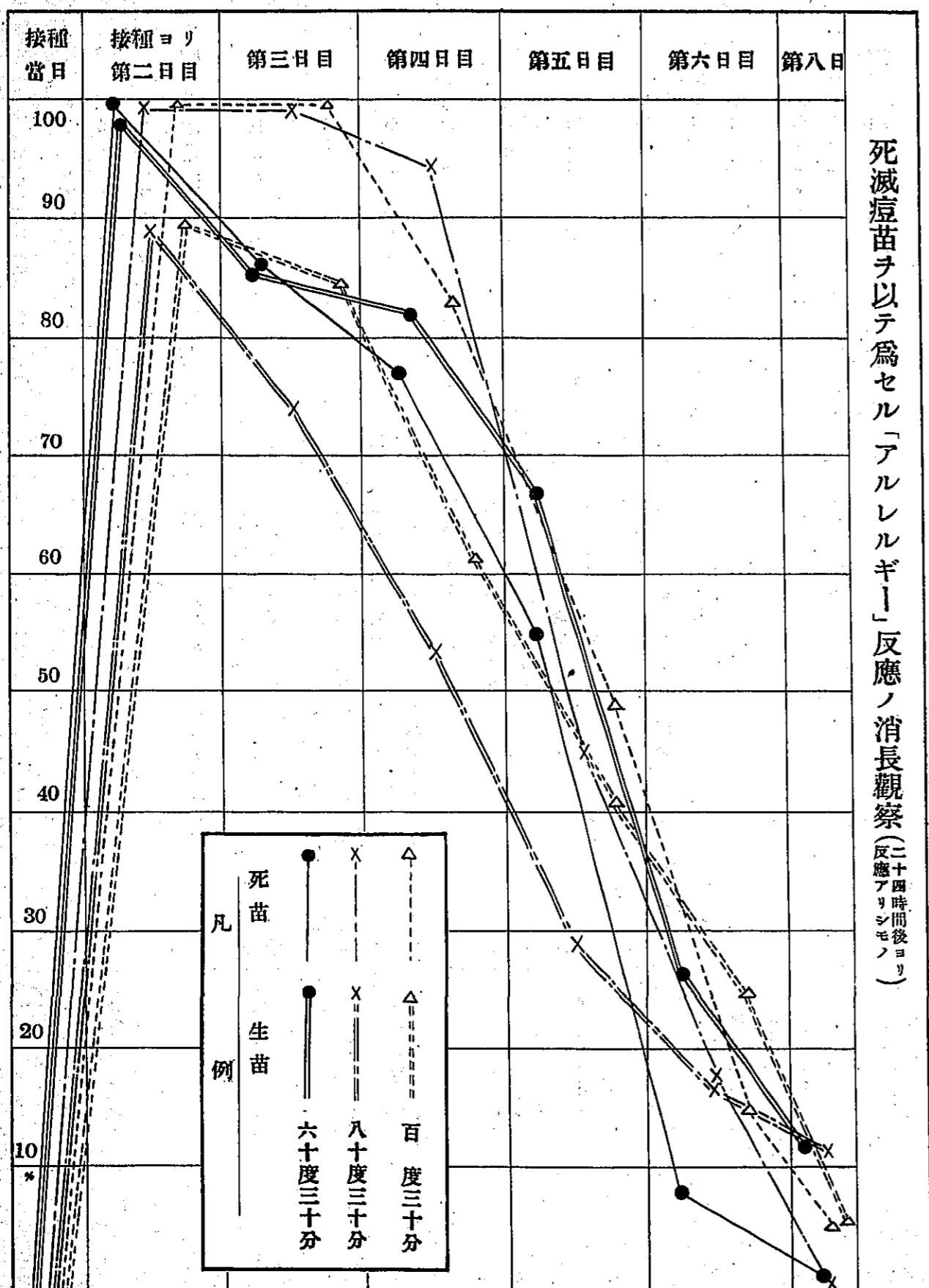
(七十六名)

前記三名ノ消長		人 員
前記金ク無カリシモ ノノ消長	%	人 員
(一人ハ全クナシ)	三・三	一〇〇
(一人ハ二十四時間ノミ、爾後ナシ)	三・三	一〇〇
(一人ハ四十八時間ヨリ起り善感)	三・三	一〇〇
	三・三	一〇〇

八十度死苗二テ 檢セル「ア」反應消長 (四十名)

(四十一)

三七八



照
射
日
期
〇〇〇〇
年
月
日

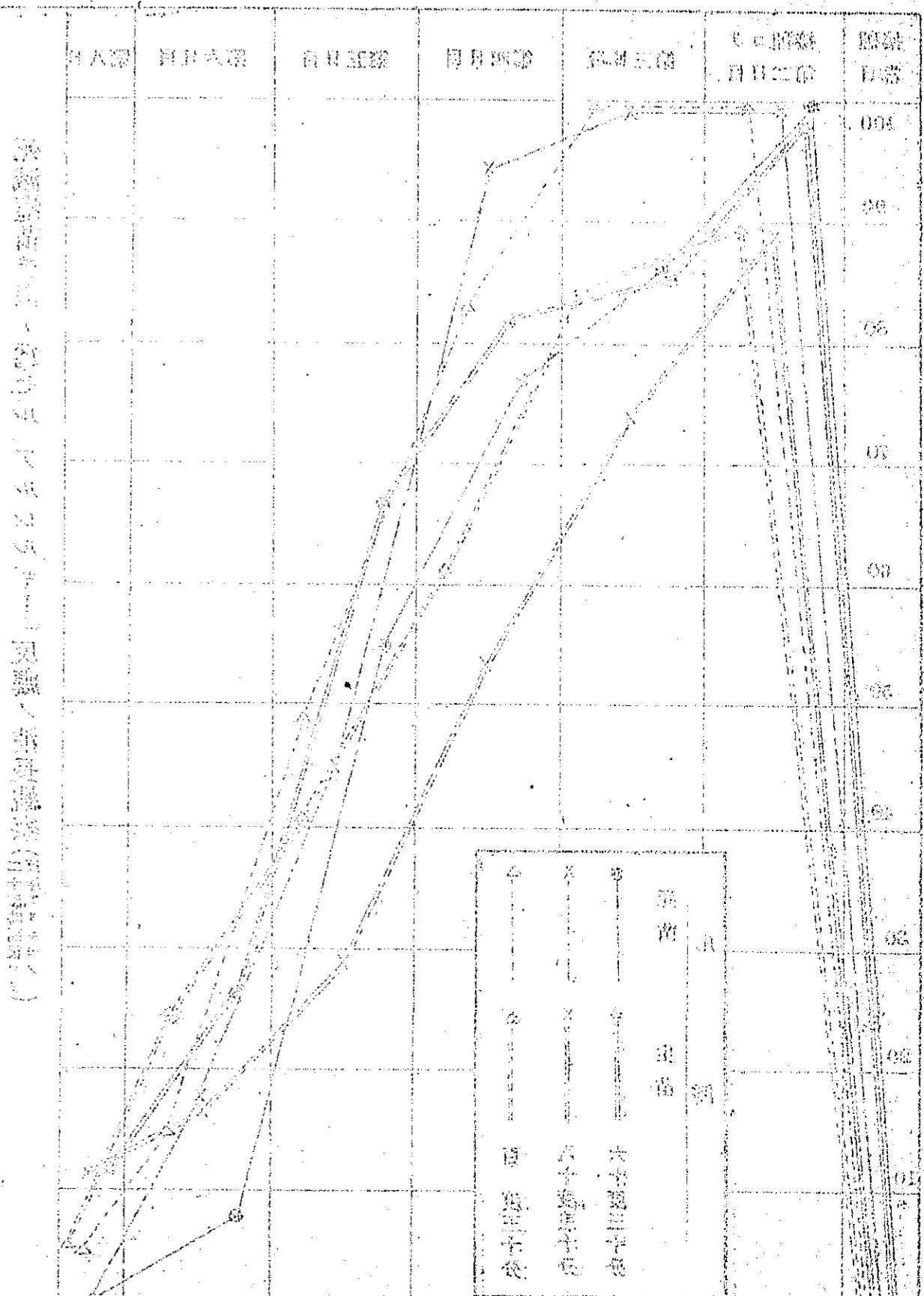
〇〇
〇〇
〇〇

〇〇
〇〇
〇〇

〇〇
〇〇
〇〇

〇〇
〇〇
〇〇

〇〇
〇〇
〇〇



二十四時間後ニ觀タル生死兩苗別アルレルギー反應強度比較】(不善感者ノミニ就キ比較ス)

(一) 六十度三十分钟加熱苗ヲ使用セル場合 (人員百十五名)

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

(二) 八十度三十分钟加熱苗ヲ使用セル場合 (人員三十五名)

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

(三) 百度三十分钟加熱苗ヲ使用セル場合 (人員六十九名)

死苗ニ比シ生苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

(四) 百度三十分钟加熱苗ヲ使用セル場合 (人員百十五名)

死苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

生苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

死苗ニ比シ死苗ニ強度ナリシモノ

生死兩苗同程度カリシモノ

(二) 八十度三十分間加熱苗ヲ使用セル場合 (人員三十五名)

死苗ニ比シ生苗長カリシモノ

死苗ニ比シ死苗長カリシモノ

生死兩苗同程度ナリシモノ

(三) 百度三十分間加熱苗ヲ使用セル場合 (人員六十九名)

死苗ニ比シ生苗長カリシモノ

死苗ニ比シ死苗長カリシモノ

生死兩苗同程度ナリシモノ

次ニ不善感者ニ於テ城井氏等ノ成績ハ一〇〇%ノ陽性率ヲ示セルモノ予等ノ成績ハ鈴木氏等ノ成績ニ一致シテ常ニ少數ノ陰性者アルヲ認メタリ此事實ハ縱令少數ナリトハ雖防疫上重要ナル事項ニシテ予等ハ始メ鈴木氏等ノ報告ニ這般ノモノノ少數舉グラレタルヲ見テ聊カ奇異ノ感ヲ抱キタルモ前後四回ニタル實驗ニ於テ何レノ場合ニ在リテモ斯クノ如キ例ニ遭遇シタル點ヨリ考フルトキ再種痘ニノ際アルレルギー反應ナクシテ而モ種痘ノ不善感ニ終リシモノニ對シ更ニ同様ノ痘苗ヲ用ギテ種痘ヲ試ミシガ其ノ結果何レモ前回ト同様アルレルギー反應陰性ニシテ種痘亦不善感ニ終レリ。

然ラバ種痘性アルレルギー反應六果シテ其ノ個體ノ有スル痘毒免疫性ヲ判定シ得ル尺度トナズニ足

當リテハ痘苗ヲ選擇シ施術ニ注意スルモ實際上斯ル例外アルヲ看過ス可ラザルモノト信ズ尙此際種痘技術ノ不完全ナリシガ爲メ此結果ヲ招來セルモノニアラザルカラムト慮リ第一回第二回及第三回實驗

ルモノナリヤ延テ之ヲ防疫上實際ニ應用スルノ價値アリヤ否ニ就キ之ガ評價ヲ試ミザルベカラズ即

不善感		「アルレルギー」反應		鈴木、四宮、岩瀬		井口、飯田(四回實驗總計)	
無	有	無	有	人	員	人	員
三三五〇	一〇〇〇	五八九	九九・七	一〇三	九二・〇	一二〇	八七・六
一三二三	二・三	九八・七	一・二	九二・〇	八・〇	一七	一二・四
一〇三	一・七	五三五	九六・九	三・一	一・七	一・七	一・七

不善感		「アルレルギー」反應		鈴木、四宮、岩瀬		井口、飯田(四回實驗總計)	
無	有	無	有	人	員	人	員
三三五〇	一〇〇〇	五八九	九九・七	一〇三	九二・〇	一二〇	八七・六
一三二三	二・三	九八・七	一・二	九二・〇	八・〇	一七	一二・四
一〇三	一・七	五三五	九六・九	三・一	一・七	一・七	一・七

備考 表中ノ成績ハ主トシテ發赤丘疹ニ就キ觀察シタルモノナリ。

「アルレルギー」反應ノ消長ハ時間的ニ異ルモノナルト叙上ノ如クナルヲ以テ之ガ比較觀察ヲ行フニ當テハ可及的同一時日ニ之ヲ檢診セザルベカラズ然レドモ鈴木氏等及予等ノ第一回實驗ハ其ノ大部分ハ二十四時間後(少數ヲ四十八時間後)ニ檢診セリ依テ次ニ鈴木氏等、城井氏等ノ調査成績ト予等ガ前後四回ニ亘リテ調査セル成績ヲ列記シ本項ノ關係ニ就キ論ゼントス。

チ予ハ自家ノ實驗成績ニ基キ、既ニ先人ガ「アルレルギー」反應ニ依リテ痘毒免疫ノ有無及程度ヲ略推定シ得ベク、防疫上ニ於ケル意義亦決シテ僅少ナラザル空シトノ評論ニ對シ贊同ヲ惜マザルモ、尙向後幾多ノ研鑽ヲ重ヌルニ非ザレ、今直ニ之ヲ推奨スルコトヲ得ズト思惟スルモノナリ。

三「アルレルギー」反應ト種痘後経過年數トノ關係

一般ニ未種痘者ニ在リテハ「アルレルギー」反應ヲ見ルコトナク、既種痘者ト雖モ接種後長年月ヲ経過セルモノハ其ノ反應輕微ナルニ反シテ、接種後短時日ニ於テ再種痘セル場合ニ在リテハ、其ノ反應著明ニ出現スルモノナルコトハ多クノ學者ノ認ムル所ナリ(ビルケー氏等)、然レドモ予等ガ行ヒタル實驗成績ニ徴スレバ、一年以上ニ接種セルモノト五年以上十年以内ニ接種セルモノト間ニ其ノ陽性率ノ甚シキ差異ヲ見ズ、十年以上ヲ経過セルモノニ在リテハ陽性率稍々減少セルヲ觀察セルモ、稀ニハ著明ニ發現スルモノアリ、或ハ又接種後數箇月ニシテ其ノ反應極メテ輕度ナルモノ渺カラズ、然レドモ本項ニ關スル調査人員少數接種後一年以上ノ者ナリシ爲メ輕々斷言スペキニアラズ、尙今後研究ノ要アリト信モノニアラズ、又種痘免疫保持ノ程度トモ必然併行セルモノト爲ス能ハヅルガ如シ。

最近ノ種痘後経過年數ト「アルレルギー」反應トノ關係 (四七〇名)

不 善 感	「アルレルギー」		五年以内		五年以上五年以内		五年以上十年以内		十年以上	
	無	有	人	員	人	員	人	員	人	員
總	三二一	一五	九五・五五		三二	一〇	一〇〇	三六	九四・七七	一五
不 善 感	無	有	人	員	人	員	人	員	人	員
	三三六	二八三	九五・六一		三二	一〇〇	一〇〇	五二三	九四・七七	八八・三四
		一三	四・三九		一	一	一	二	一五	一七六
			九五・四五		一	一	一	二	一	一

痘 痕 頻 數	計		五年以内		五年以上五年以内		五年以上十年以内		十年以上	
	無	有	人	員	人	員	人	員	人	員
零	一	一	三二一	一五	三二	一〇	一〇〇	三六	九四・七七	一五
一	一	一	一	一	一	一	一	二	一五	一七六
二	二	二	一	一	一	一	一	二	一	一
三	三	三	一	一	一	一	一	二	一	一
四	四	四	一	一	一	一	一	二	一	一
五	五	五	一	一	一	一	一	二	一	一
六	六	六	一	一	一	一	一	二	一	一
七	七	七	一	一	一	一	一	二	一	一
八	八	八	一	一	一	一	一	二	一	一
九	九	九	一	一	一	一	一	二	一	一
十	十	十	一	一	一	一	一	二	一	一
十一	十一	十一	一	一	一	一	一	二	一	一
十二	十二	十二	一	一	一	一	一	二	一	一
十三	十三	十三	一	一	一	一	一	二	一	一
十四	十四	十四	一	一	一	一	一	二	一	一

四「アルレルギー」反應ト接種部位竝痘痕數トノ關係

痘瘡ノ發疹ニ際シテ痘原體ハ被服ニ庇護セラレル部ヨリモ外部ニ露出セル部位、身體ノ内側ヨリモ外側ニヨリ強度ニ親和力ヲ有スルモノナルヤ否ヲ檢査ントシ、上轉ノ内外側ニ接種シ比較觀察セシニ、自然モスクリノ如キ關係ヲ保持スルモノナルヤ否ヲ檢査ントシ、上轉ノ内外側ニ接種シ比較觀察セシニ、自然感染ノ場合ニ於ケルト同様屈側ヨリ伸側ニ著明ニシテ、其ノ陽性率ノ比二對三ニナルヲ見タリ、即チ單ハ外側ヨリモ内側ニ強度ナル場合多キヲ認メタリ、蓋シ神經分佈狀態ノ差異ニ因ルモノナルカ。

痘痕數ト「アルレルギー」反應トノ關係 (一一一名)

痘 痕 頻 數	計		五年以内		五年以上五年以内		五年以上十年以内		十年以上	
	無	有	人	員	人	員	人	員	人	員
零	一	一	三二一	一五	三二	一〇	一〇〇	三六	九四・七七	一五
一	一	一	一	一	一	一	一	二	一五	一七六
二	二	二	一	一	一	一	一	二	一	一
三	三	三	一	一	一	一	一	二	一	一
四	四	四	一	一	一	一	一	二	一	一
五	五	五	一	一	一	一	一	二	一	一
六	六	六	一	一	一	一	一	二	一	一
七	七	七	一	一	一	一	一	二	一	一
八	八	八	一	一	一	一	一	二	一	一
九	九	九	一	一	一	一	一	二	一	一
十	十	十	一	一	一	一	一	二	一	一
十一	十一	十一	一	一	一	一	一	二	一	一
十二	十二	十二	一	一	一	一	一	二	一	一
十三	十三	十三	一	一	一	一	一	二	一	一
十四	十四	十四	一	一	一	一	一	二	一	一

感不著明		痘痕數		應反「ニギルレニア」	
無	有	輕度	中度	高度	零
一	一	一	一	一	一
二	四	三	一	四	二
三	一一	七	八	三	三
四	一三	五	九	四	四
五	一二	五	六	五	五
六	二二	一〇	六	六	六
七	二二	七	一	七	七
八	五	四	一	八	八
九	一	一	一	九	九
十	一	一	一	十	十
十一	一	一	一	十一	十一
十二	一	一	一	十二	十二
十三	一	一	一	十三	十三
十四	一	一	一	十四	十四

五「アルレルゲーネ」(Allergene)

種痘ニ依ル「アルレルギー」反應ノ本體、特ニ其ノ「アルレルゲーン」即チ「アルレルギー」反應ヲ惹起スル物質ニ關シテハ、斐ニビルケー氏其ノ他ニ依リ研究セラレ、我國ニ在リテハ、鈴木氏等ニ依リ報告セラレ、從來信セラレタル如ク生活力ヲ有スル「アルレルゲーン」ヲミ本反應ノ成因タリトノ説ヲ否定シ、抗痘原體ニ對スル痘原體性物質ノ作用ニ歸スペキヲ立證セリ、予等亦之ガ追試ヲ爲シ、生活痘苗、死滅痘苗、家兔血清、ブイヨン牛乳等ヲ以テ「アルレルギー」反應ノ出現狀態ヲ觀察セルガ、痘原體性物質ヲ含有セザル材料ニアリテハ、其ノ反應多クハ陰性ナルヲ認メタリ。

1 A

氏名	杵淵トミ子	年齢	19歳
描寫ノ目的	接種後10分間内外描寫(左上脇) 以下同ジ 即時反應著明 生死兩苗別殆ト差異ナシ		
種痘成績	内側生苗 不善感 外側死苗 不善感 反應兩苗とも第五日目消失		
注意	24時間後アルレルギー反應著明ニ出現ス		
備考	24時間後再描寫		

1 B

氏名	杵淵トミ女	年齢	當 19 歳
描寫ノ目的	接種後 24 時間 描寫 アルレルギー反應(浸潤丘疹)著明 生死兩苗殆ト差異ナシ		
種痘成績	内側 生苗 不善感 外側 死苗 不善感 兩苗ノ反應第 5 日目同時 = 消失		
注意	即時反應著明ナリシモノ		
備考	即時反應描寫		

2 A

氏名	離元豊子女	年齢	當 18 歲
描寫ノ目的	接種後 10 分間内外描寫 即時反應著明 生死兩苗ニ殆ト差異ナシ		
種痘成績	内側 生苗 3 頭善感 外側 死苗 不善感 生苗ノ上 2 頭ハ丘疹、浸潤著明。下 1 頭膿疱形成死苗ノ反應ハ第 6 日 目ニハ消失		
注意	24 時間後生死兩苗共 <u>アルレルギー</u> 反應陰性 48 時間後反應出現		
備考	24 時間後及第 6 日目再描寫		

2 B

氏名	離元豊子女	年齢	當 18 歲
描寫ノ目的	接種後 24 時間 描寫 <u>アルレルギー反應(生死兩苗共)陰性</u>		
種痘成績	内側 生苗 3 頭 善感 外側 死苗 不善感 生苗ノ上 2 頭ハ丘疹浸潤著明、下 1 頭膿疱形成死苗ノ反應ハ第 6 日目ニハ消失		
注意	即時反應著明ナリシモノ		
備考	即時反應及第 6 日目描寫		